

**平成２６年度 第１回
千葉市本庁舎整備検討委員会議事録**

- 1 日 時： 平成２６年７月２２日（火） 午前１０時～正午
- 2 場 所： 千葉市役所議会棟 第３委員会室
- 3 出席者： （委員）
柳澤委員（委員長）、関谷委員（副委員長）、稲葉委員
近江委員、大槻委員、菅野委員、小久保委員、指田委員
関橋委員、玉井委員、古谷委員、元木委員
（事務局）
穴倉財政局長、曾我辺資産経営部長、杉戸管財課長
内谷庁舎整備室長、布施管財課長補佐

４ 議 題

- （１）委員長及び副委員長の選任について
- （２）会議の公開等について
- （３）これまでの検討経緯と今後の取り組み
- （４）アンケート調査報告
- （５）基本構想について
- （６）その他

５ 議事の概要

- （１）委員長及び副委員長の選任について
委員長に柳澤委員、副委員長に関谷委員が選任された。
- （２）会議の公開等について
会議の公開等に関する事務局案が全会一致で同意された。
- （３）これまでの検討経緯と今後の取り組み
事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答、意見交換が行われた。
- （４）アンケート調査報告
事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答、意見交換が行われた。
- （５）基本構想について
事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答、意見交換が行われた。
- （６）その他
今後の委員会日程にかかる事務局案について、委員の了承を得た。

６ 会議経過

（１）開会

（事務局）定刻となったので、本委員会を開会する。はじめに財政局長宍倉より挨拶申し上げます。

（財政局長）皆様に本委員会の委員への就任を快諾頂いたことに感謝している。

１９７０年１月に建築された現庁舎は、老朽化、行政組織拡大による狭あい化が進み、近隣の民間ビルを借り上げしており、そのため本庁機能が分散している。また、耐震性能の低さ等、防災面の課題がある。

平成２３年度から現庁舎の課題について検討をはじめ、老朽化、狭あい化・分散化、防災面の３つの視点を整理した。その後、外部機関への委託調査、第３者機関による評価と、継続して検討を進めてきた。このような経過を経て、今年度から新庁舎整備の本格的な検討を行うこととなった。

新庁舎整備は、千葉市の一大事業であり、９７万人市民の生活を支える拠点である。新庁舎建設に関し、皆様に力添えをお願いする。

（２）委員紹介

（事務局）本日の委員を紹介する。千葉市本庁舎整備検討委員会設置条例にもとづき、過半数の委員に出席いただいているため、本会は成立していることを報告する。

（３）議題

ア 委員長及び副委員長の選任について

（事務局）千葉市本庁舎整備検討委員会設置条例第５条第２項に基づき、委員の互選によって委員長を定めることとされている。

（近江委員）建築学に造詣が深く、木更津市庁舎の整備委員会の委員長などを務められ、経験豊富な柳澤委員がふさわしいのではないかと。

（一同 異議なし）

（事務局）柳澤委員に委員長に就任いただき、今後の議事進行は柳澤委員長にお願いする。

（柳澤委員長）僭越ながら委員長を拝命する。局長から説明があったとおり、現庁舎には耐震性、狭あい化、老朽化の課題がある。早急な整備が必要ではあるが、最近の工事費用の上昇を考慮することや、庁舎に必要な防災機能を十分に検討し、庁舎建築を進めることが重要である。過年度、本庁舎整備に関する勉強会を通して様々な課題が明らか

になった。全国モデルとなる本庁舎の整備に向けて、本格的な検討を進めるため、学識経験者の方や様々な団体の方にご協力を頂きながら進めていきたい。

次に、次第に従い副委員長を選任をする。委員の互選であるが意見を伺いたい。特になければ、私から推薦させて頂きたい。政治学を専門とされ、千葉県内の様々な自治体で審議会の委員を歴任される関谷委員が副委員長にふさわしいと考える。

(一同 異議なし)

(柳澤委員長) それでは関谷委員に副委員長をお願いする。関谷副委員長から挨拶を頂きたい。

(関谷副委員長) 私は政治学が専門であるが、広義な観点から、自治や参加、コミュニティの在り方をテーマに研究をしている。庁舎整備にあたって、その課題を様々な角度から考える必要があり、高度な専門性が必要な場合と、逆に千葉市の市民感覚から考えることが必要な場合もある。委員長の補佐役として、議論の交通整理にあたると共に、自身も意見を述べるよう努めるので、よろしくお願いしたい。

イ 会議の公開等について

(柳澤委員長) 会議の公開等について、事務局による説明をお願いする。

(事務局 資料2の説明)

(柳澤委員長) 会議の公開について、意見、質問があれば伺いたい。

(稲葉委員) 一部非公開ということだが、どのような部分が非公開になる可能性があるのか。

(事務局) 千葉市情報公開条例の不開示情報に該当する場合、非公開とする場合がある。しかしながら、現時点では本委員会において非公開にする事項は含まれないと考えている。

(柳澤委員長) 事務局案で異議がなければこのとおり決定したいがいかがか。

(一同 異議なし)

ウ これまでの検討経緯と今後の取り組み

(柳澤委員長) 議題３の「これまでの検討経緯について」へ議題を進める。

我々委員の理解を深めるため、庁舎整備の概要、本会議の趣旨、千葉市の取り組みの現状等について事務局より説明をして頂く。委員からの意見を頂く時間も取るが、時間の都合上、途中で区切る可能性もあることを了承頂きたい。

(事務局 資料３の説明)

(柳澤委員長) これまでの検討経緯と今年度の取り組みについての事務局の説明に対し、質問があれば伺いたい。意見は次の議題で受けたいと思う。特に質問がなければ、議題４及び５のアンケート調査報告及び基本構想に議事を進めたい。

(一同 質問なし)

エ アンケート調査報告及び基本構想について

オ 基本構想について

(柳澤委員長) 事務局より議事４及び５の資料を説明いただく。

(事務局 資料４、５の説明)

(柳澤委員長) 資料３、４、５によれば耐震補強や大規模改修を行って現庁舎を継続使用するより、新庁舎を建設するほうが定性的にも定量的にも優位という結果が出ている。建て替えの場合、４ヘクタールという広大な敷地の活用方法と、本庁舎周辺企業との連携及びこの一帯の防災対策エリアとしての位置付けが課題になるだろう。本委員会の議論の出発点として、これらを議論の中心に据える。資料に関する質問、意見があれば挙手願いたい。

(稲葉委員) 冒頭で市役所の敷地は埋立地だという指摘があった。防災をメインに検討を進めるようだが、現庁舎敷地は災害に対して問題ないという理解でよいか。

(柳澤委員長) 敷地に問題がないかという質問だが、事務局に補足説明をお願いしたい。

(事務局) 埋め立て地であることは事実である。昨年実施した第三者評価では、地盤等の対応が可能との評価結果であった。また、千葉県調査によれば、東京湾に１０ｍの津波がくるケースであっても、このエリアには津波が届かないという検討結果であった。

(柳澤委員長) 地盤の安全性は第3者評価で確認されている。津波は千葉県の調査で問題ないことが確認できたという説明であった。

(稲葉委員) 東日本大震災時、青年会議所も支援のため様々に活動した。だからこそよく理解しているが、幕張や浦安のような近隣の地域でも液状化が問題となった。建設予定地が埋め立て地であるが、近隣の地域のように液状化現象は起こらないということか。

(事務局) 液状化が起こらないわけではなく、液状化に対する対応が可能との第三者評価での評価結果だった。

(柳澤委員長) 液状化が発生しないということではなく、液状化への対策が考えられるという結論である。

(稲葉委員) 液状化は発生する可能性はあるが、技術的に対応が可能と認識した。有識者ではないため技術的な点は不明だが、液状化が起こる可能性があるが、対策は可能である、よってこの場所に新庁舎を建設するという回答に不安が残る。別の場所で建設してはどうか。

(柳澤委員長) 液状化への対応策の点で補足的な説明があるか。

(事務局) 地盤は実際に掘削しなければわからない点がある。構想段階であるため、今後、専門家の調査を通じて、地盤がどの程度液状化するのか、どの程度対応可能なのかを確認したい。

(柳澤委員長) これまでに地盤の調査を実施したわけではないが、この後に、地盤を調査してその対応策を基本計画で検討するという理解でよいか。

(事務局) 対応策については今後検討していきたい。

(柳澤委員長) 液状化が起こる可能性を踏まえ、その対応策を詰めていくことが必要ということだろう。関連した意見や質問を伺いたい。

(小久保委員) 液状化の懸念はあるが、基本的にこの場所が適当であると思う。これまでに他の候補地の可能性を検討したことがあるか。

(事務局) 候補地の要件としては、人の往来の多い交通の中心で、かつ敷地を確保でき

る場所となる。現敷地であれば十分に対応可能である。50,000㎡の庁舎を想定した場合、駐車場だけでも2ヘクタールの敷地が必要となる。候補地の検討については、過去に、千葉駅西口や学校施設跡地などを検討したことがあるが、資料3で説明したとおり、現敷地は防災対応面で価値が見出せると考えている。

（柳澤委員長）過去に検討しているが、現敷地より有力な候補がないという現状のようだ。

（大槻委員）本庁舎整備の検討に関するアンケート調査の結果では、定性的な評価で新庁舎建設に賛成の意見が多いように思う。分散化している他の建物の使用を中止し、議事堂も含め新庁舎に機能を集約させることが前提となっているのか。

（事務局）資料3で紹介した庁舎整備手法は、現本庁舎を使い続ける場合のモデルや、新規に庁舎を建設する場合のモデルを設定して、整備手法を検討したものである。必ずしも全ての機能を一棟に集約させると決まっておらず、今後議論していく事項である。

（柳澤委員長）新庁舎に導入する機能は、まず、現本庁舎にある機能は引き継ぐとして、議会棟や新たな機能を、どう新庁舎に組み入れていくのかはこれからの検討だ。資料3に示されたボリュームスタディ¹は仮定で検討されたものである。

（大槻委員）建物配置について、モノレール駅からの位置によっては交通が不便になることが心配だ。高齢化が進む中、庁舎が駅から遠くなると不便になる。

（柳澤委員長）配置に関して、建築工事上の制約はあるだろうが、事務局で配置のシミュレーションを実施すると聞いている。事務局から、現時点でそれぞれのメリット、デメリットを補足することはあるか。

（事務局）配置計画は、基本計画の検討の際に議論頂きたいと考えている。

（柳澤委員長）他に意見があれば伺いたい。

（菅野委員）東日本大震災の際、この地域で液状化現象は発生したのか。

（事務局）土砂の噴出はなかったが、駐車場のコンクリートのひび割れが見られた。幕

¹ ボリュームスタディ 建築の初期計画において、建築法令を考慮した上で、建物として利用可能な施設規模を検討すること。

張や浦安で発生した液状化現象はこの敷地では確認されなかった。

（菅野委員）資料３のＰ７に東日本大震災当日の写真が掲載されている。震度５強よりも強い地震に見舞われたかのような被害写真だ。建物が脆弱だったのか、立っている地盤が脆弱だったのか、どのような要因でこのような執務室の状況に至ったのか。

（事務局）掲載した写真は本庁舎の７階である。この被害が建物に起因するものか、地盤に起因するものかは不明である。建物は鉄骨造のため、地震の揺れで上階の揺れが大きくなる。そのため、６～８階の上階では書架の倒壊が多発したと考えている。

（柳澤委員長）天井の一部落下や家具の倒壊といった被害も少しあったと聞いている。二次構造部材と呼ばれる、建物の構造に直接関係していない部分で被害が多かった。建物が無事であっても天井や家具の崩落で被害を受けたという事例は多く、今後、新庁舎建設にあたって、こういった点も対策が必要だ。

また、建物の内部だけでなく、周辺企業と連携した地域防災力を高めることも課題の一つであるが、意見があれば伺いたい。

（近江委員）大丸有地区で防災に取り組んでいる。建物・機能を強固にすることは目標としてわかりやすいが、加えて重要なことは、災害時に誰がどのような役割を担うか、それを地域の人が知っておくことだ。大丸有地区では、打ち水活動など、平時から防災以外でも顔の見える親しい関係を育んでおり、これがエリアマネジメント²の中に位置づけられることが重要である。様々な機能を持った企業が多いため、各々がどのような役割を果たすのか、隣組的な組織が将来出来上がっていくことを念頭に置き、場所の役割・機能を考えていく必要がある。

（柳澤委員長）ハードの整備だけではなく、人と人が繋がっていないと災害時に機能しないという例である。市役所を中心として周りの企業を含めたエリアマネジメントが必要ということであろう。

（指田委員）防災の観点から、このエリアを見たらどうかという意見を呈したい。まず大枠として、区役所と市本庁舎の役割分担を考えなければならない。周辺にライフライン関連の企業が揃っていることから、災害時に司令塔の役割を果たす本庁舎は情報収集が重要であり、今の本庁舎の場所は非常によい立地である。他の候補地についてどのように検討したのかという意見があったが、津波等の災害時リスクの高さは認めるものの、

² エリアマネジメント 地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み（国交省 HP より）

情報収集といった点では現在の敷地は非常に強いと思われる。ロジスティックスの面でも、港が近いことで、情報や物資の搬入に港を活用でき、大きな利点がある。東日本大震災など過去の災害では、多くの自治体が物資の置き場所に困っていた。そういった点も含め、駐車場スペースやみなと公園を防災利用に向け再構築する等、広く俯瞰して見ると新しい視点が見えてくる。災害時には物資供給の観点からは、屋外に広い敷地が必要であるし、庁舎内部にもスペースが必要である。また、応急危険度判定の作業など、災害時特有の作業スペースも必要となる。災害時には予想以上にスペースが必要になるということは指摘しておきたい。

(柳澤委員長) 無駄に空きスペースを用意するわけにはいかないが、非常時、屋内、屋外に広いスペースが必要になるという指摘だ。屋外については、みなと公園や駐車場が重要な機能を果たすという考えもあるだろう。

(玉井委員) 地図を見ると一目瞭然なのだが、ライフライン等を担う機能が市庁舎周辺に立地している。リスクは存在するだろうが、市庁舎が中心になって機能する姿をイメージすることができる。市の説明を聞いた範囲で、今後、この考え方を前提に、ハード・ソフト面、職員の訓練対応等、議論を進めていくことがよいのではないか。空、陸、海の面から災害対策を考えた場合、現庁舎敷地が一番適切と認識している。今後、どういう形の防災対策活動や敷地の利活用が可能か、検討を進めることが重要だ。

(柳澤委員長) 建て替えについて、検討結果では新築が優位という結論であるが、議論があれば伺いたい。慣れ親しんだ市庁舎の一部を残すという考え方もあるだろう。

(元木委員) 古い建物のため、床がたわむのではと不安に思う。床スラブ³厚が12cm～15cmと、とても細く、職員数と書類の量を考えると来庁することを躊躇しても仕方がないほどに、安全性の低い建物だと思う。地震でひびが入らなかったのは幸いであった。もし、庁舎滞在中に大地震が発生したら、急いで庁舎から退出したいくらいだ。改修での対応は難しいと考える。

(柳澤委員長) I s 値⁴等の調査も部分的にばらつきがある。施設の形態によって一部 I s 値が低い部分もある。アスベストの問題もあり、詳細な調査ができない部分もある。過去の検討では詳細調査をするというよりは、概要を勘案し、経済的に優位性があるという判断を下したようである。事務局から I s 値等の構造にかかる調査結果について補

³ 床スラブ 一般的には鉄筋コンクリート造の建築物において、床の荷重を支える構造床のこと。

⁴ I s 値 構造耐震指標。対象となる建築物が有している耐震性能のこと。

足があればお願いしたい。

(事務局) 本庁舎の I s 値は 0.5 と公表している。アスベストの問題もあり調査が困難であったため、昭和 62 年の耐震診断結果を、平成 18 年に I s 値に置き換えて計算したものである。

(柳澤委員長) 床スラブについての説明も伺いたい。

(事務局) 床スラブは 11 cm である。

(柳澤委員長) 現在の基準からすればかなり問題がある。全体的に問題で、床スラブの問題だけではない。

(元木委員) 全体がそのような状況であれば、構造的に弱いのだろう。

(古谷委員) 新たに庁舎を建設することに賛成である。市役所周辺は港、鉄道、地域防災計画にあがるような企業が集積しているところであり、これらと連携することが可能だ。食品コンビニートがあるので食料の調達も可能ではないか。防災や機能性から見て必要なスペースは確保していくべきだ。市庁舎は千葉市の顔であるので仮に無駄と思われるスペースであっても、働く人の意欲を高める場所になるのであれば、確保していくべきだ。職員の意欲の高まりが結果的に行政サービスという観点で市民に還元されるのであればよいし、また、市民が親しみやすい明るいイメージの庁舎となることを願う。

(柳澤委員長) 今回は防災拠点としての議論が中心となったが、平時の活動を念頭に、どのような機能を追加するかは次回、議論をお願いしたい。災害時に重要な役割を果たすスペースについては、平時にどう活用するかが課題となるだろう。

(古谷委員) ただ空きスペースではなく、公会堂のような市民が何かできる建物にしたり、駐車場も地下に設置可能な災害時トイレという選択肢もある。

(指田委員) 災害時と平常時の利用をそれぞれ想定して本庁舎を計画している例はまだ多くない。駐車場に災害時トイレを設置することは様々なところで工夫されている。高層マンションで余剰敷地があるところでは、平常時はバーベキューができるようなスペースにし、災害時にそのスペースを活用するという例がある。これまでトイレの問題はあまり重要視されていなかったが、災害時の問題として、検討しなくてはならない事項だ。

I s 値に関して、この値は耐震補強をする際の目標が安心して逃げられるための強度レベルであり、これを達成しても災害対策拠点として不十分である。継続して防災対策をしなくてはならない施設として、強度はこれの1.2倍、実際1.5倍くらい強くしなければならない。現庁舎の大規模改修では、この1.2倍以上の耐震性能を有する改修は不可能だろう。こうした点も市民に説明していくことが必要だろう。

(柳澤委員長) 防災拠点にするのであれば、現在の法律よりもさらに高い耐震性能を必要とされ、堅固な建物に建て替えることが必要であり、大規模改修では対応が困難という意見であった。

(関橋委員) 私は被災地である八戸市の出身だが、色々な人の話を伺うと、災害時の想定はあるが実際は何が起こるかわからない、一番強いのは人の力だと言う。過去にあった事例をシェアするのもよいだろう。逃げるルートを皆で確認している町は被害が少ない。ある程度の防災機能は必要不可欠だが、人の力をそこに付加するように促さないといけない。最近、コミュニティ・デザイン⁵という言葉がある。私はコミュニティのブランディングに関わっているのだが、人と住んでいる町の絆の強さに全てがかかっていると思う。今の日本は豊かなため、コミュニティに対する意識が低下している。ここに素晴らしい庁舎を建てたとしても、市民にどれだけ関心を持ってもらえるかということを考えないとお金をかけても無駄になる。そうしたPRやブランディングができていないと、宝の持ち腐れになる。これからの街は若い人にかかっている。若い人たちがどう生きていきたいのか、それができれば東京よりも千葉が好きという感情になる。ブランディングというのは上からではなく、下から自発的に出来上がっていくものである。そういうコミュニティの視点も重要である。

(柳澤委員長) 地域全体でコミュニティを作っていくこと、これからの世代の若い人の参加を多く募ることが必要だ。

(関谷副委員長) 市民の方々が庁舎をどう捉えていくのか、どのように関わっていくのかを考えなければならない。庁舎というのは公共性のシンボルである。従来は、行政・役所が長く独占するという意味での公共性であったが、今は地域や市民ベースでの公共性という意味に変化している。現在求められている公共性に見合った新庁舎の建設が問われる。関連して、本庁舎と区役所の関係も非常に大きな問題である。大半の行政機能は区役所機能で済んでしまうという状況で、本庁舎がどのような業務を担っているのかを市民がイメージするのは容易ではない。本庁舎から区役所への業務移管についても多く議論されている。千葉市自身も一定の機能を区役所へ移していく、区役所機能を高め

⁵ コミュニティ・デザイン 地域や社会を活性化する、人をつなぐ仕組みをつくること。

ていくという流れになっているのだろう。そのような中で、本庁舎と区役所の役割分担を議論することになるだろう。本庁舎が防災機能を担うということは大きな役割分担の中の一つで、今日の議題である。避難場所についても、区役所ベースでできることもあるだろうが、情報ネットワークや全体統括の面では、この場所に本庁舎があることの意味が問われてくるだろう。本庁舎と区役所の機能の関係、そこに着眼して今後検討していくことが重要だと認識している。

また、本庁舎敷地と周辺の敷地をどのように活用するのも大きな課題である。周辺住民の方がどう思われているのか、どういう機能を持つべきか、そして防災ネットワークをどう構築していくのか、これは、この地域だけの議論にとどまらないだろう。例えば千葉駅からこの地域まで、さらに港までの各エリアとしての関係性。平常時と災害時の活用可能性も論点の一つだ。俯瞰したネットワークの中で本庁舎を位置づけていくことが重要だ。

（柳澤委員長）本庁舎と区役所の役割分担については、次回、平常時の議題を取り扱う際に併せて議論したい。災害時であれば、本庁舎に多くの市民が避難してくるというイメージではなく、情報集約・発信拠点のイメージである。一方、市民が集まる場所として本庁舎ならではの役目がある。市役所が市民の窓口になっている通常の市と、政令指定都市である千葉市の庁舎の役割は異なる。

アンケートを見ると半数以上の市民が来庁したことがないという結果である。本庁舎は市民にあまり関係ないという意識は変えていく必要があるだろう。本庁舎が市民に対してどのようなサービスを提供していくのか、どのような機能を保有するべきか、今後検討を深めたい。

（近江委員）この場所がどのような機能を担うかについて、例えば、大丸有地区では地下広場を利用してトリアージ⁶の実験を医師会と協力して実施した。災害時には広い場所が野戦病院と化すことを想定しておく必要がある。例えばこの敷地の駐車場を活用してトリアージすることも考えられる。一方で、このエリアには医師会や日本赤十字が立地しているし大きな公園もある。であれば、そちらに任せてここは別な機能を担う。といった周辺との機能分担を検討することが必要だ。また、液状化については、このあたりでは、市川礫層と思われるが、基礎を礫層で支える建築物は、表面で液状化が進んだとしても、崩壊することはないといった技術的見解を市として市民に公表することが必要ではないか。

（元木委員）礫層の話が出たが、構造的に堅固な建物ができるといっても大きな津波の

⁶ トリアージ 災害時に多数の傷病者が同時に発生した場合に、緊急度や重症度に応じて、適切に搬送や治療を行うこと。

可能性があることから、海沿いに庁舎が立つことを心配する意見もあるだろう。津波がここには到達しないという説明があったがどのような根拠でその結論に至ったか補足説明を願いたい。

(柳澤委員長) 敷地の是非もあるだろうが、想定される津波のレベルを少し上げた場合に、下層階が水没しても防災機能が停止しないような計画が必要だ。非常用発電機を下層階に設置しないというような工夫があるだろう。最悪の状況を考慮した場合でも本部機能が失われない構造になっていることを示す必要がある。

(事務局) 津波想定については、千葉県の発表資料を参照している。その解説について、検討する必要があると感じている。

(柳澤委員長) 本日頂戴した意見を踏まえると、資料5記載の論点1については、事務局の案は委員の考えと概ね同じであることが確認された。最後に事務局より、その他について説明して頂く。

(4) 閉会

(事務局) 次回以降のスケジュールは、第2回7月29日(火)、第3回8月27日(水)、第4回9月2日(月)、いずれも10時から12時に開催させて頂く。

(柳澤委員長) 今後の委員会日程について、意見はあるか。

(一同 異議なし)

(柳澤委員長) 事務局より提案のあった日程で今後の委員会を進めていく。以上で千葉市本庁舎整備検討委員会閉会する。